

クラブ活動



イラストレーション部



イラストレーション部は現在部員十六人平成十三年度に同好会として発足、平成十六年度から部として活動しています。毎年高知県主催まんが甲子園に応募しており、平成十五年度は同好会ながら決勝にまで進出しました。他の主な活動は、二ヶ月に一回「割肉強盗」という会誌を発行しており、山城祭でその会誌の配布と様々なイラストの展示をしています。普段はみんなで色々話ながら絵を描いています。いつも明るく楽しいのが私達イラストレーション部です。

放送部

部員は三年四名、二年二名、一年一名で活動しています。今までの主な活動としては、NHK杯全国高校放送コンテストに十年連続出場、今大会も含め四回準決勝に進出し各々入賞を果たしました。また、今年も全国高等学校総合文化祭の放送部門にも出場しています。昨年は、第五十五回全国高等学校駅伝競走大会の



開式 通告 を含 めた 開会 式、 表彰 式及 び閉 会式 の司

会・進行もおこないました。今後も細々とではありますが、地道に活動を続けて行きたいと思っています。

水泳部

我々、水泳部は、本年度から本格的に競泳とシンクロの二本柱での活動を始めました。

競泳では、男女共に活気ある練習を毎日続けています。近畿大会にも連続で出場し、目指す目標はインターハイです。そのためにもこれから、ますます努力し、結果を残していきます。

シンクロは、まだ歴史が浅く、皆さんの認知度も低いのですが、競泳に勝るとも劣らない躍進を見せています。二年前に始めた山城水泳部ウオーターポイズも、今年度は努力のかいもあり、「全国高校生ウオーターポイズ選手権2位」の切符を手に入れました。もちろん、目指



すは優勝です。

これからも、男女が力を合わせ、お互いに向上出来る最高の部活を目指し、活動していきます。皆さんも応援宜しくお願いします。

硬式テニス部

昨年六月に新しく体育館が完成し、その屋上に奈須のオムニコートが二面できました。本年度は既に三年生が現役を引退し、新二年生を中心に男子二十三名、女子二十五名で活動しています。平成十五年度（二〇〇三年度）から、高体連の公式戦はエントリー制限がかかり、各高校とも上位選手がエントリーするため



二次予選選出が以前より難しくなりました。今年度は個人戦での二次予選

選出と公立高校大会（団体戦）でのベスト八選出を目標にしています。平日は常時使用できる一面のコートを男女で割り振り、コートが使えない時間はランニング、筋力トレーニング等、限られた時間を無駄にすることなく、常に集中を心がけて練習に励んでいます。

ソフトテニス部

私たちソフトテニス部は現在男子十名、女子十二名の計二十一名で活動しています。昨年の六月に新体育館が完成し、その屋上にテニスコートも出来しました。コートは二面だけなので、放課後は男・女一冊ずつ交替で使っています。主に練習日は放課後と土曜日だけなので、その限られた時間の中で自分の技術にさらに磨きをかけるために日々頑張って練習に励んでいます。しかし、大会ではま



だ全然良い成績を残すことが出来ていなくてとても悔しい思いもしています。その悔しい思いを胸にもっとたくさん練習をして、今の自分達に足りない精神面の向上を目指し、一人一人が自分のプレーに自信を持てる様になりたいと思います。そして、大会でも山城高校の名を残せるようにチーム一丸となつて、頑張っていきたいです。

卓球部

卓球部は、今年度十五名の部員で活動しております。中学時代から卓球部に所属していた生徒も多いのですが、高校に入學してから新たに卓球を始めた生徒もあり、三年間の練習で上達し、レギュラーを勝ち得た選手もおります。ここ数年は、戦績面で比較的健闘しており、平成十四年度（二〇〇二年度）夏の近畿高校選手権にダブルスで出場したのを皮切りに、十五年度（二〇〇三年度）は団体戦でも近畿大会出場を果たしました。さらに、同年冬の近畿高校新人戦にも団体戦で出場し、活気あふれる活動を展開しています。

卓球は個人スポーツのイメージが強い競技ですが、チームとしての競技力向上を目指しています。もちろん、様々な戦型の選手がおりますので、皆様の練習で

は、全員がそれぞれのレベルにあった課題を設定し、みんなですその課題の相手をしてしながらお互いにレベルアップを図り、その一方で部内でのリーグ戦や、他校との練習試合を頻繁に行っています。最近十年程を振り返りますと、むしろ女子の活躍が目立ったクラブでもありました。平成九年頃（一九九七年）からは団体でも個人でも大会で上位進出を重ねる選手が多く、女子だけでなく多くの部員を擁していました。今後、女子部の復活も卓球部にとっては大きな課題であると考えています。

サッカー部

サッカー部は現在部員九十二人、マネージャー五人、合計九十七人で活動しています。山城高校サッカー部は全国大会優勝をはじめとする素晴らしい歴史のあ

るクラブです。今年四月に新しいグラウンドが完成し、サッカーのコートをとれる大きさとなりました。今までは河川敷や近隣高校のグラウンドを借りて練習をしたり土・日は他府県の高校へ練習試合に行く毎日でした。グラウンドができた現在は相手高校に来ていただいで試合をしたり、公式戦の会場になる時もあり、活気に溢れています。顧問の先生をはじめとし、コーチ、ＯＢ会、父母の会など大勢



の方々のお力のもと、日々基礎を中心に、一対一の練習、シュート練習、全体

スト8にも入れない状況が続いています。高い目標を持ち、質の高い練習を積み重ねることで、山城高女子バスケットボール部の灯を守り続けようと思っています。

陸上競技部

我が陸上競技部の前身である京三中陸上競技部の創部の時期は明確ではないが、高林藤樹（山城高第五回卒）OB会長が創刊した「雄飛録」を見ると、大正六年となっている。

「雄飛録」とは、高校三年間での各個人の種目別の最高記録の歴代ランキング表及び卒業生の名簿を掲載した冊子のこととて、毎年発行された。五月頃に印刷ができあがり、夏の暑い時分、部活動が終了した午後七時ごろから、一年生が中心となつて、卒業された先輩の家を一軒一軒訪問冊子を渡すと共に、OB会費をい

ただくという習慣であった。この取り組みは、陸上競技部OBと現役とを結ぶ絆となつていた。しかしながら昭和五十年ごろに滞り、安本啓容（山城高第二十回卒）、那須本幹志（山城高第二十二回卒）の尽力により平成四年に整理し、今日に至っている。

陸上競技部は伝統的に「自主」「自立」、別の言い方では、「気が向けば頑張る、楽しく走る」という精神が脈々と受け継がれてきたようである。そんな中ではあるが、ヘルシンキオリンピックに三段跳びに出場した、長谷川敏三（京三中第三十一回卒）は別格として、 $\times \times \times$ リレーの京都選抜チームの一員として京都高校記録を樹立した天花寺宣彦（山城高第十二回卒）、四〇〇メートル五位の中川弥夏（山城高第五十一回卒）、全国選抜大会五〇〇メートル二位の中

井美々子（山城高第四十八回卒）、などが挙げられる。又、昭和五十九年度イ

ンターハイ府大会において中美幸（現姓阪本）、戸田英子（山城高第三十七回卒）らの活躍で公立高校では初となる女子総合優勝を飾った。

卒業後、陸上競技の指導者として、都道府県対抗女子駅伝競走大会において、京都府チームが五連覇したときにコーチを務めた高校教員、澤田安之（山城高第十七回卒）、多くのインターハイ選手を育成した江原吉信（山城高第四十一回卒）、小学生陸上教室で活躍している中川善彦（山城高第十八回卒）、伊藤茂（山城高第二十二回卒）などがある。

一方、陸上競技で培った能力を生かし、社会で活躍している人物も多い。京都市の体育振興会で地域の体育・スポーツ活動の振興・発展に尽力し、文部科学大臣賞を受けた松本雅年（山城高第九回卒）、都道府県対抗女子駅伝競走大会事務局長として駅伝を陰で支え、現在は京都新聞社取締役の岸野洋（山城高第十二回卒）、

スト8にも入れない状況が続いています。高い目標を持ち、質の高い練習を積み重ねること、山城高女子バスケットボール部の灯を守り続けようと思っています。

陸上競技部

我が陸上競技部の前身である京三中陸上競技部の創部の時期は明確ではないが、高林勝樹（山城高第五回卒）OB会長が創刊した「雄飛録」を見ると、大正六年となっている。

「雄飛録」とは、高校三年間での各個人の種目別の最高記録の歴代ランキング表及び卒業生の名簿を掲載した冊子のこと、毎年発行された。五月頃に印刷ができあがり、夏の暑い時分、部活動が終了した午後七時ごろから、一年生が中心となって、卒業された先輩の家を軒一軒訪ね冊子を渡すと共に、OB会費をい

ただくという習慣であった。この取り組みは、陸上競技部OBと現役とを結ぶ絆となっていた。しかしながら昭和五十年ごろに藩り、安本啓吾（山城高第二十回卒）、那須太幹志（山城高第二十二回卒）の厚力により平成四年に整理し、今日に至っている。

陸上競技部は伝統的に、「自主」「自立」、別の言い方では、「気が向けば頑張る、楽しく走る」という精神が脈々と受け継がれてきたようである。そんな中ではあるが、ヘルシンキオリンピックに三段跳びに出場した、長谷川敬三（京三中第三十一回卒）は別格として、 $\Delta \times \infty$ リレーの京都選抜チームの一員として

京都高校記録を樹立した天花寺宣彦（山城高第十二回卒）、四〇〇メートル五位の中川孝夏（山城高第五十一回卒）、全国選抜大会五〇〇メートル二位の中井美々子（山城高第四十八回卒）、などが挙げられる。又、昭和五十九年度イ

ンターハイ府大会において中美幸（現姓阪本）、戸田英子（山城高第三十七回卒）らの活躍で公立高校では初となる女子総合優勝を飾った。

卒業後、陸上競技の指導者として、都道府県対抗女子駅伝競走大会において、京都府チームが五連覇したときにコーチを務めた高校教員、澤田安之（山城高第十七回卒）、多くのインターハイ選手を育成した江原吉信（山城高第四十一回卒）、小学生陸上教室で活躍している中川晋彦（山城高第十八回卒）、伊藤茂（山城高第二十二回卒）などがある。

一方、陸上競技で培った能力を生かし、社会で活躍している人物も多い。京都市の体育振興会で地域の体育・スポーツ活動の振興・発展に尽力し、文部科学大臣賞を受けた松本雅年（山城高第九回卒）、都道府県対抗女子駅伝競走大会事務局長として職任を歴で支え、現在は京都新聞社取締役の岸野洋（山城高第十二回卒）、



跳鞍馬（記録不明）

同年日本選手権（山形県営）三段跳 優勝（1.5m62：戦後世界最高）この活躍で「昭和文賞典」受賞

昭和二十七年 ヘルシンキオリンピック

三段跳代表（戦局不明）

とある。長谷川氏を先輩と仰ぐ陸上競技部にとっては誇りであり、宝である。

陸上競技部の現況は、三十二名（二年

二十名、二年十一名、三年一名）の部員で活動しています。平日は学校のグラウンドで早朝（七時三十分～八時十五分）、

放課後（三時四十分～六時三十分）に活動し、休日

は皇子山陸上競技場などの施設を借りて練習しています。また昨年度

からは長期休業中に強化合宿をおこなって競技力の向上をはかっています。今年

（平成十七年・二〇〇五年）は、希望ヶ丘（一月・三月）、渡路島（二月）、奥

高原（七月）で合宿を実施しました。冬

季合宿や船岡山での走り込み練習などシ

ーズンオフのトレーニングの成果で筋力や精神力がアップしたことで、春からの大会で上位に入賞し近畿大会に出場する選手もでてきました。最終目標は全国のトップに立つことです。陸上競技者としてだけでなく、一人の人間としてこれからの人生をたくましく生き抜いていけるような人間形成を目標に活動しています。

ダンス部

「失礼します、ダンス部ですー」の掛け声も元気に職員室にデッキを取りに来て、毎日練習に励んでいるのは、一～三年までの男女三十四名です。

現在は山城寮に向けて五つのグループが頑張っています。三～四の堤由香さんと、三～七の西田春菜さんを中心とした女子九人は、素敵なガールズ・ヒップホップを披露します。三～四の曾我友見

などを彩である。

前記長谷川敏三氏について、「京都陸上競技のあゆみ」（1972京都陸協刊）の中の記述には

昭和二十一年 復活第二回日本選手権兼国民体育大会（西京橋）三段跳 優勝

（記録不明）

昭和二十三年東西対抗（明治神宮）三段

さんと三十三の山田尚平さんを中心とした十人も女子だけのグループですが、ガツガツ系のヒップホップが魅力です。唯一の男子グループは三十四の小山真太郎君を中心にした、明るく仲良しの一ト三年の五人組です。激しくてカッコいいブレイクダンスが得意なメンバーです。また、初級フリースタイルの一年女子全員も頑張っていますし、二年女子のテクニクとパワーのフリースタイルも楽しみです。

メンバーも増えています。これからダンス部の活躍に注目していただきたいね！

ハンドボール部

十数年前、旧グラウンドの片隅で山城ハンドボール部は生まれました。ここ十年程は専門の指導者がいないのですが、生徒達は自らの頭で考えながらチームを作



り、後輩を育てて来ました。現在、男子十八名、女子五名が熱いので汗を流しています。練習はどうしても暑さに流れる

てしまう傾向があるのですが、試合では、素人顧問の目から見ると、なかなか驚しく充実したプレーを見せてくれます。校舎改築の頃は練習場所に困り、クラブ存続の危機でした。この「水戸川」をくぐり抜ける中から、男子は個性あふれる面白いチームに育ってきました。女子は、残念ながら、一時期、消滅してしまいました。でも、昨年から手強くなり男子に混じって練習を続ける生徒もいます。目標

は、男子はやはりベスト八に入れる力をつけること、女子は、先ずチームの再建です。指導できる顧問がおれば、もっと伸びるのでしょうか、生徒らはのびのびとハンドボールを楽しんでいます。

野球部

現在 一年生二十八名、二年生十三名、



三年生十八名、計五十九名で活動しており、ここ十年ではベスト八には六回進出しているも



競優勝（記録不明）

同年日本選手権（山形県営）三段跳 優勝（1.5m62：戦後世界最高）この活躍で「厚記念賞典」受賞

昭和二十七年 ヘルシンキオリンピック
三段跳代表（戦績不明）

とある。長谷川氏を先輩と仰ぐ陸上競技部にとっては誇りであり、宝である。

陸上競技部の現況は、三十二名（二年二十名、二年十一名、三年一名）の部員で活動しています。平日は学校のグラウンドで早朝（七時三十分～八時十五分）、放課後（三時四十分～六時三十分）に活動し、休日には皇子山陸上競技場などの施設を借りて練習しています。また昨年度からは長期休業中に強化合宿をおこなって競技力の向上をはかっています。今年（平成十七年・二〇〇五年）は、希望ヶ丘（二月・三月）、淡路島（二月）、豊後高原（七月）で合宿を実施しました。冬季合宿や船岡山での走り込み練習などシ

ーズンオフのトレーニングの成果で筋力や精神力がアップしたことで、春からの大会で上位に入賞し近畿大会に出場する選手もできました。最終目標は全国のトップに立つことです。陸上競技者としてだけでなく、一人の人間としてこれからの人生をたくましく生き抜いていけるような人間形成を目標に活動しています。

ダンス部

「失礼します、ダンス部ですー」の掛け声も元気に職員室にデッキを取りに来て、毎日練習に励んでいるのは、一～三年までの男女三十四名です。

現在は山城祭に向けて五つのグループが頑張っています。三～四の堤由香さんと、三～七の西田春菜さんを中心とした女子九人は、素敵なガールズ・ヒップホップを披露します。三～四の曾我友見

など多彩である。

前記長谷川敏三氏について、「京都陸上競技のあゆみ」（一九七二年陸協編）の中の記事には

昭和二十一年 関西第一回日本選手権国民体育大会（西宮競）三段跳 優勝

（記録不明）

昭和二十三年東西対抗（明治神宮）三段

コンテストの近畿予選で優勝しました。惜しくも本選には進めませんでしたが、四位入賞を果たしました。

この時期は、最も大きな発表の場である山城祭のライブに向けて練習に励んでいます。旧S館への渡り廊下を改造した部室が練習場所です。冷房もない部室で、アンブから発せられる熱で汗まみれになりながら演奏しています。

そんな軽音楽部ですが、尾崎亜美さんも活動された歴史ある山城のクラブです。最近では、一世を風靡され最近活動を再開された大先輩から、コンサートに誘って戴いたりもしています。

山城高校軽音楽部の伝統を汚さぬよう、見た目で目立つのではなく、演奏で目立つよう頑張っています。山城祭にお見えの際には軽音楽部のライブも覗いてみてください。

弓道部

平成十三年には校舎改築にともない活動場所も撤去され、休日にのみ他校の道場を借用して練習を続けるという状況にあった。平成十五年、新たな活動場所を



設けてもらい、現在では、毎日弓を射ることができるようになった。とはいえず、射場には屋根がなく、雨の日には練習ができません。また二人が並んで引くのがやっという広さであり、部員たちは順番待ちに時間を費やし矢数をかけられないという難点もある。そうした環境ではあるが部員たちは、平成十二年度以来、遠ざかっている全国大会への出場をめざし、日々の練習に励んでいる。練習に向けての姿勢を平成十六年度の主持は、つぎのように語っています。

「現在、わたしたちは十分な設備とは言えない中で練習をしています。そんな環境だからこそ一本・一射に集中するよう心がけています。心身ともに鍛え、古くからある山城弓道部の名に恥じないような、けじめのある充実した活動をしていきたいと思います。」と。

剣道部

京三中・山城高の剣道部の輝かしい歴史の中で、昨今の剣道部の活動状況は大変さみしいものとなっている。部員の数が少なく大会参加の心配をしなければならぬ時もある。しかし、少人数短時間でも、内容の濃い練習を心がけ、日々稽古にはげんでいる。

剣道部OB会より定期的に指導者を迎え、貴重なアドバイスを受けたり、毎年八月と元旦の2回、OBとの輪古会を続けている。

その結果が実を結び、平成十六年度(二〇〇四年度)府立高校大会男子団体ベスト8、平成十七年度(二〇〇五年度)京都府高校団体男子団体にベスト8入賞など、少しずつではあるが結果を残せるようになってきた。

昨年の夏には、新格技場(尚武館)が完成に伴って剣道部OB会より太鼓の贈呈を受けた。また尚武館の正面には「百練自得」を掲げ、心・技・体のバランスのとれた人間をめざし精進している。

写真部

平成十一年(一九九九年)、旧E館とN館との間の階段下倉庫の暗室で、庶部となっていた写真部が同好会として再生しました。現在は新築となった本館三階物理準備室の一角を区切り写真部の暗室とさせて使っています。

平成十七年(二〇〇五年)一月の作品審査会に於いて部員の作品の一つがお陰様で二席に選ばれ、平成十七年(二〇〇五年)第二九回全国高等学校総合文化祭青森大会に京都府代表の一作品として出品させて戴くことになりました。青森で

は、全国の代表作品を隣近に鑑賞し、交流会、撮影会を通じて本校生徒と全国各県の代表生徒とが交流を深めその輪の中で撮影技術等の向上も図りたいと思っています。

また八月には大阪の日本写真映像専門学校に於いて、フィルム現像、印刷紙焼付けの暗室作業について実技講習を受け、平成十八年(二〇〇六年)八月、京都で開催される第三〇回全国高等学校総合文化祭に向け、技術と感性を磨いていきたいと考えています。



山城2図 萩島潤

柔道部

競技人口減少の中、本校の柔道部も部員不足に悩んでいます。現在、三年男子一名、二年生男子五名・女子一名となっており、部員確保が最大の課題であります。

さて今年度、四月の公立大会に男子団体五人制と、男女の個人戦の部で出場しました。



団体戦は、一回戦海洋高校に全員一本勝ちしたのですが、二回戦で準備運動の水津高校に

全敗しました。全員出場した個人戦では、一人がベスト十六に進出しておられます。

続く京都総体は男子ト級Ⅱ部で一回戦負け、さらに六月のインハイ個人予選でも全員が一・二回戦で敗退しました。しかし、気合いを入れ直して臨んだ六月下旬の団体予選では、一回戦で綾部高校に大熱戦の末、勝利を掴み、ベスト十六の平安高校戦に駒を進め、負けましたが大善戦しました。これは、三年を始めとする全部員の執念が実った試合でした。

少人数ですが、このように柔道部も頑張っております。引き続きご声援ください。

ボート部

ボート部の練習場所は、琵琶湖の瀬田川です。ボートに乗って練習するために、往復二時間もの時間をかけて琵琶



湖に行かなくてはなりません。そのため、時間的な面や部員の確保が難しく、ここ数年部

員がいない状態でした。今年度部員が入らなければ廃部になるという危機的な状態でしたが、夏休みに何度か試合会に連れて行き、熱心に勧誘しました。その結果、今現在、一年生女子五名入部してくれ、数は少ないながらボート部が復活しました。自分たちを引っ張ってくれる先輩がいない中で、徐々に練習量を増やしながら頑張っています。時には、不安になりながらもお互いの考えを出し合い、他の人の考えを受

湖に行かなくてはなりません。そのため、時間的な面や部員の確保が難しく、ここ数年部

け入れ、支え合いながら活動しています。これからも、ボート部を通して技術的にも人間的にも成長できるクラブになれるよう頑張っていきたいと思っています。

合唱部

合唱部は、平成十八年三月現在、部員十四名で、毎週火曜日に活動しています。しばらく部員がおらず、名前だけ存在していた部ですが、昨年十一月に三年生の呼び掛けで、少しずつ部員が増えてきました。普段は、音楽室で発声練習やパート練習などを行っています。

今年二月には、初めてのコンサート(図書委員会主催によるバレンタインコンサート)を校内でひらき、たくさんの方に私達の歌声を聴いていただくことができました。今後は、校外での発表も目標

にして、活動していきたいと思っています。

書道部

書道部の現在の部員数は三名(二年生一名、三年生二名)です。少人数ではありますが、個々のやる気は一杯の部員たちです。日頃は、毎週火曜日と木曜日を



活動日とし古典の臨書から創作まで、紙のサイズの半紙から畳一枚分くらいある

大きさの紙までと、幅広い制作活動を行っています。

現在は、九月の山城祭や、秋に実施される各種展覧会への出品に向けての制作を主に行っています。また、十一月に福井県で行われる、近畿高等学校総合文化祭への出品も決定し、それに向けた制作も行っています。大きな作品は床に畳を敷いた場所で、体操服に着換えて、体全体を使ってのスケールの大きな作品をめざして制作を主に行っています。

来年度京都を舞台とする「全国高等学校総合文化祭」では文科系の部で活動している生徒達がその主役となります。そこで思う存分のパフォーマンスを書道部でも発揮できるよう、今から力を蓄えていきたいとおもいながら活動しています。

女子バレーボール部



三年生十名が、六月三日のインターハイ予選で引退をし、現在は二年生六名、一年生九名の十五名で新チームとして活動しています。春季大会では練習の成果が出せず悔しい思いをしました。その思いをバネに部員一同、秋季大会に向けて毎日練習に励んでいます。体育館の割り当てのない外練習の日も、「強い身体づくり」のため、筋力・バランス・反射・持久力トレーニング等まずは一人

一人が体を作り上げることが徹底し、体育館での練習に臨んでいます。また、体づくりと平行して、基本技術をしっかりとし身につけるべく、ベースアップトレーニングにも力を注いでいます。基本を忠実に粘りのあるコンビバレーのできるチームを目指しています。目標はベスト8ノースコアの中にも笑顔と元気のあるチームとしてさらに練習に励んでいきたいと思っています。

吹奏楽部

吹奏楽部は現在、一年生十九名、二年生二十名、三年生十二名の計五十一名で活動しています。

吹奏楽部は音楽を演奏して聴いて頂くクラブです。クラシックやポップス、ジャズなど様々なジャンルの曲を演奏しています。たくさんの方に私たちの演奏を聴いて頂けるよう、毎日、より良い音楽

を目指し、練習しています。また全員で一つの音楽をつくるということを目標にしています。

五月には恒例となっているグリーンコンサートで周辺の中学との合同演奏、夏



司見演館の依頼演奏、六月には第九回卒業生の同窓会での演奏、市役所前での高校バンドフェスティバル、八月にはコンサートと紙面には書ききれない程の依頼演奏などもさせていただいています。来々年三月二十四日には定期演奏会を開催します。皆様のお越しをお待ちしています。

男子バレーボール部

男子バレーボール部は四月に新入生七名を迎え、総勢二十名でスタートしました。

春季大会では決勝トーナメントの精戦で粘りながらも敗退しましたが、総合体育大会では上級の部でブロック準優勝、インターハイ予選でも市内ベスト十六に入り、府下大会に進みました。府下大会では二回戦で優勝校の北嵯峨と対戦し、

健闘及ばず敗退しましたが、府下でベスト十六という実績を上げることができました。

インターハイ予選の後、三年生が引退し、二年生を中心として新たなチーム作りを進めています。人数が減ってしまつたことと、二年生に中学校での経験者が少ないことから、練習の一つ一つを自分たちで考え、工夫しながら毎日の練習に取り組んでいます。

先輩たちの残した実績に負けないように、そうして一つでも先に進めるように、一・二年生一人一人が強さの感じられるチームにしたいと思っています。

美術部

現在の部員は十二名です。主に京都府高等学校総合文化祭や山城祭にむけ、テーマを決めて、活動しています。昨年度

は総合文化祭に多くの作品を出品でき、その中から一点は現在、府庁内展示作品として展示中です。また全国高等学校総合文化祭にもデザイン分野で京都府代表として推薦され、参加しました。次年度は総合文化祭が京都で開催されますが、現在、その準備に向けて、活発な活動を進めているところです。

手話部

手話部は本校で聴覚障害生徒の受け入れを開始して五年を経過した、昭和五十二（一九七七）年に発足、学校創立百周年に創部三十四年を迎えます。

週二日の定例活動として、手話・コミュニケーション講座、聴覚障害生徒に対する放課後の集団指導への参加・協力などを行っています。その成果は、文化祭

での発表・手話弁論大会の企画・運営などで発表しています。

聴覚に障害のある生徒だけでなく、聞こえる生徒も例年入部し、聴覚障害による学校生活での課題やその改善・克服に向ける生徒の主體的な取り組みに理解・協力を進めてきました。

「豊かなコミュニケーションの確立」という手話部の目的は、聴覚障害教育の推進だけでなく、学校教育に少なからず、その役割を果たしてゆくものと考えています。

平成十七年度現在、聴障生九名・健聴生二名の十一名で活動しています。活動日は毎週火曜日と水曜日の二回。主な内容は、手話学習とミーティングです。手話を唯一のコミュニケーション手段と考えるのではなく、意思疎通のための一つの方法として捉え、手話の技術を向上させることによって、コミュニケーション能力を高めていくことを目指しています。

大きな行事としては、夏の交流学習会と秋の手話弁論大会があり、交流学習会では、二泊三日の日程で、手話による研究発表や討論会などで、お互いの交流を深めています。この活動を通して、特に一年生は、学年間、聴障生・健聴生間の壁が無くなる事が多く、秋の弁論大会の発表へと繋がっていきます。

その弁論大会では、百名近くの聴衆を前にして、聴障生の気持ちや口頭考えていることなどを、発表しています。

山岳部

部員が少ないので平成十六年度（○四年度）から洛北高校山岳部と合同で活動しています。月一、二回の日帰り山行が活動の中心です。平成十六年度は、北山（樺子山、雲取山）、比良（武奈ヶ岳、蓮

葉山、常盤岳、蛇谷ヶ峰）、愛宕山、湖南アルプス、金勝アルプス、鈴鹿、六甲、北摂（ボンボン山）、奈良（春日山）などバラエティに富んだ山行が出来ました。また、夏休みには二泊三日で白馬岳に登りました。平成十七年度になって部員も二人ふえました。平成十六年度同様、洛北高校山岳部と合同で活動しています。



山行2回 森 直男



山崎 11 月 20 日 丹波國